

リスクマネジメント研究部会

自衛消防隊訓練をやりよう

部会長 上倉 秀之

かみくら ひでゆき

FM防災Lab代表
NPO法人日本防災環境 理事
認定ファシリティマネジャー

猛威を振った新型コロナウイルスの影響や、人事異動などで自衛消防隊の経験者が少なくなった事業所も多いようです。セミナーでは各企業単位で実施できる自衛消防隊地区隊の訓練について、地震発生時を想定した訓練シナリオや実施上の留意点を解説します。

ぜひ、各事業所で自衛消防隊の訓練を行ってください。

自衛消防隊

自衛消防隊は事業所で働く人で編成され、防火の活動や初動対応を行います。災害時には初動対応する中核組織です。ビルの規模の大小やオフィス規模に関係なく編成して訓練することをお勧めします。自衛消防隊は「隊長」と5つの班で編成されます。(1)「初期消火班」、(2)「避難誘導班」、(3)「通報連絡班」、(4)「応急救護班」、および(5)「安全防護班」です。一般的には(1)から(4)の4班で編成されることが多いのですが、FM的には施設の設備や被害状況を確認する役割を担う(5)「安全防護班」の編成を強く推奨します。

訓練の準備

● 日時・場所・参加者の選定

訓練全体で40-60分程度を確保。会議室等を使用し、訓練の声が執務場所に漏れないことが望ましいが、執務場所の一角でも可能です。

事前説明・・・訓練時間は限られているため、「自衛消防隊とは」などの基礎的なことは東京消防庁などの動画サイトで事前に予習してもらいましょう。

● 準備品

ホワイトボード：情報の記録、ヘルメット・手袋等の個人装備、メモ用紙・筆記用具、点呼用名簿、消火器（放

出はさせないので訓練用でなくても良い。)、火災発生場所A4のプリント、情報シート、傷病者情報シート、傷病者観察記録カード、建物チェックシート、訓練用台本

今回のフォーラムで推奨する訓練の流れ

今回のフォーラムでは「地震発生時の初動対応」を自衛消防隊で行う設定としています

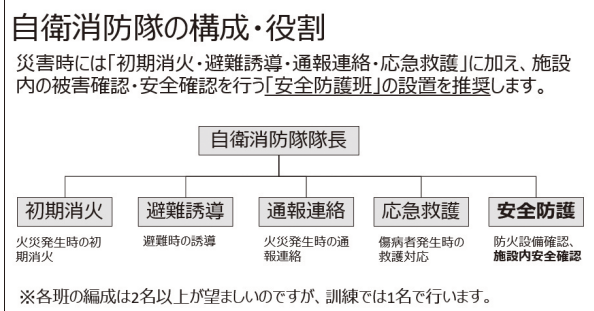
- ① 進行役から「地震発生」を告知
- ② 参加者は「身体防護措置(身を低くし・頭を守り・動かない)」を実施
- ③ 進行役から「揺れ収束」を告知
- ④ 参加者は自身の安全確認と周囲への「大丈夫ですか」等の声掛けを行う
- ⑤ 地震発生により自衛消防隊を編成
- ⑥ 参集者に5つの班の役割分担を行う。通報連絡班は編成を記録する。
- ⑦ フロア内点検を指示
- ⑧ 進行役は可燃性液体の瓶が落下し発火と想定し、火点を用意
- ⑨ 点検に赴いた班が「火災」を発見。初期消火・避難誘導・通報連絡を実施
- ⑩ 続いてフロア内安全確認・被害確認を実施
- ⑪ 途中、傷病者を発見した場合は応急救護を実施
- ⑫ 各班は本部にて状況報告し情報を共有

最初は一つずつ区切って、参加者が役割を理解できるようにゆっくりやりましょう。

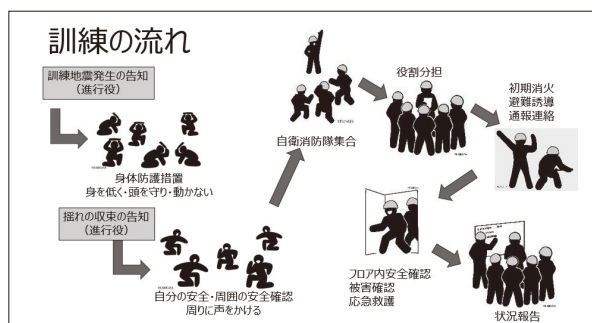
慣れてきたら一連の活動を同時並行的に対応するようにレベルアップしましょう。

訓練は、安全第一で実施しましょう。タイムトライアルではなく、手順の確認なので、1つひとつ「災害現場での安全管理」を考えながら行動しましょう。「初期消火」「避難誘導」「応急救護」は個々の講習会などで実技訓練を行ってください。

なお、「建物の安全確認」は各施設の特性に合わせて点検箇所をあらかじめ設定しておくことを推奨します。◀



図表1 自衛消防隊の構成・役割



図表2 訓練の流れ